

令和5年度 国語科 学習指導案

単元名 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう

「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

1. 単元構想図

【単元のねらい】
 考えとそれを支える事例との関係が明確になる書き表し方を理解し、学習した書き方の工夫を用いて食べ物について分かったことを書きまとめることができる。
【本単元における言葉による見方・考え方を働かせた姿】
 分かりやすく説明するために、接続語を用いて事例が書かれた段落相互を順序立てて結び付けてい

単元の評価規準

知識及び技能

○考えがどのような事例や理由によって支えられているかを、接続語や段落相互の関係に着目して理解している。【(2)ウ】

思考力・判断力・表現力等

◎自分の考えとそう考えた理由や事例との関係を明確にして、例示の順序を工夫して書くことができる。【B(1)ウ】

学びに向かう力・人間性等

○単元の見通しをもって学習活動に取り組み、自分の考えを分かりやすく相手に伝えるために、理由や事例の書き表し方を工夫している。

単元をつらぬく課題： れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして食べ物のひみつを書こう。

<第13時>互いに文章を読み合い、自分や仲間の説明の仕方のよいところを見つけている。【思・判・表 B(1)オ】

<第11・12時>自分の考えと、それを支える事例の関係がはっきりするように、接続語を使ったり、図や写真を使ったりして書いている。【思・判・表 B(1)ウ】

<第9・10時>意図を明確にして、調べた情報を順序立てて作文を構成している。【思・判・表 B(1)イ】

<第7・8時>学習活動に関心をもち、積極的に情報を収集している。【学びに向かう力】

<第5・6時>例示の順序や写真の提示、文章全体の構成の工夫などをまとめ、自分の文章で使用する見通しをもっている。【思・判・表 C(1)ア】

<第4時(本時)>事例の書かれ方を根拠として段落相互の関係を捉えて、例示の工夫を書いている。【思・判・表 C(1)ア】

<第3時>叙述を基に、「はじめ」「なか」「おわり」に分け、筆者の意見とそれを支える例を読み取っている。【知・技(2)ア】

<第2時>本文中の語句の意味を辞書で正しく調べている。【知・技(2)イ】

<第1時>本文を読んで内容の大体を捉え、学習課題を設定している。【学びに向かう力】

「まず」「次に」などの言葉を使って順番に説明すると、分かりやすく伝えられることが分かった。

はんぺんのように言葉だけで説明が難しいものは写真を使って書けた。

お寿司のように作り方が簡単なものから、はんぺんのように作り方が難しいものになるよう順番を考えた。

私は魚について書こう。かつお節やはんぺんの説明を分かりやすくしたいな。

自分で書く時には、分かりやすい例から順番に書いていき、分かりにくいものは絵や写真を使って説明したい。

作り方が想像しやすいものから順番に説明していることが分かった。

この文章は、大豆をおいしく食べる工夫を説明していることが分かった。

「いる」という言葉の意味が分かった。日本語には似た動きでも言葉が違うものがあると分かった。

大豆を使った食べ物ってたくさんあるんだな。自分は何を調べようかな。どう伝えようかな。

各単位時間における評価規準

授業後の児童の意識

既習事項 ○共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。(1・2学年 知・技(2)-7)
 ○文と文の続き方に注意して、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

2 本時のねらい

事例の順序を並べ替えて比較する活動を通して、筆者が意見を支えるために、分かりやすいものから難しいものになるように意図的に例示していることに気づき、読み手が理解しやすいように、意図をもって例示することが大切であると理解できる。(思考力、判断力、表現力 C(1)ア)

3 本時の展開 (4/13)

過程	学 習 活 動 (◎教師の発問 ○児童の発言)	教師の働きかけ
導 入	<p>1 前時までの学習の振り返りをする。</p> <p>◎大豆をおいしく食べるための工夫の例が書かれているのは、どこでしたか。</p> <p>○3~7段落です。</p> <p>◎どのような言葉に注目して例を見つけましたか。</p> <p>○「くふう」という言葉です。</p> <p>○「いちばんわかりやすいのは」や「次に」のようなつなぎ言葉です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者があげた話題を端的に振り返ることができるよう、掲示物を用意する。 ・本時が「中」の部分の構成を捉える時間であることを共有し、学習の出口を明確にする。また、単元をつらぬく課題を再確認して、本時の学習を活用すれば良いことを確認させる。【研究内容1】
展 開	<p>2 例の内容を確認する。</p> <p>◎どのような食べ物が出てきましたか。</p> <p>→「豆まきの豆」「煮豆」「豆腐」「納豆」など</p> <p>3 例示された食品を並べ替え、事例の順序の工夫を考える。</p> <p>◎先生はなんとなくこういう順番にしてみたのですが、筆者は何か理由があってこの順番にしたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットにヒントシートを配付しておき、必要に応じて活用するように声をかける。机列表を用いて学習の理解度を把握し、状況に合わせて個別に声をかける。【研究内容2】
開	<p>【課題】筆者が、おいしく食べるための工夫をこのような順番で紹介しているのはなぜだろう。</p>	<p style="text-align: center;">個に応じた指導・援助</p> <p>【C→Bの手立て①】 順序の意図に見当がつかない児童に対しては、ヒントシート①を使って穴埋めさせ、写真を頼りに、大豆の形の変化が小さいものから大きいものになっていることに気付かせる。</p>
終 末	<p>4 例示の順序の意図について自分の考えをもつ。</p> <p>○なんとなくではないと思うけれど、理由が分からないな。(Cの児童①)</p> <p>○筆者の食べたい順番で紹介していると思う。(Cの児童②)</p> <p>○作り方が簡単なものから難しいものになっていると思う。(Bの児童)</p> <p>5 事例の順序の工夫を全体で交流し、筆者が意図的に例示していることをまとめる。</p> <p>○筆者は、大豆の形が分かりやすいものから分かりにくいものの順番で紹介していると思います。</p> <p>○作り方が分かりやすいものから、難しいものの順番で紹介していると思います。それは、つなぎ言葉を見ると分かります。</p>	<p>【C→Bの手立て②】 見当がずれている児童に対しては、ヒントシート②を使って穴埋めさせ、作り方が単純なものから複雑なものになっていることを、接続語と関連付けて気付かせる。</p> <p>【B→Aの手立て】 正しく見当をつけている児童に対しては、順序の意図に気付かせるために筆者がどのような言葉を使っているかを考えさせ、接続語が段落相互を結び付けていることに気付かせる。</p>
終 末	<p>6 本時の学習を振り返り、まとめを書く。</p> <p>◎筆者の紹介の仕方でもったことをまとめとしてノートに書きましょう。</p> <p>【まとめの例】筆者は、読む人に分かりやすく説明するために、読む人にとって分かりやすいものから、分かりにくいものの順番で例を書いていることが分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の意図を複数の見方で捉え、いずれも分かりやすいものから分かりにくいものの順になっていることに気付かせる。その際、接続語に着目している児童を意図的に指名する。 ・大豆のことに限定せず、本時の学習を一般化している児童を意図的に指名し、本時の学びが今後の活動とどのように関係してくるかを示す。 <p style="text-align: right;">【研究内容3】</p> <p><評価規準> 事例の書かれ方を根拠として段落相互の関係を捉えて、例示の工夫を書いている。(終末のノートのまとめ)</p>